

第 6 回 マチミチ会議

地方都市のウォーカブルシティ

沼津市のウォーカブル推進に係る取り組み

240229



大藪 善久

株式会社SOCI／ソウシ・代表

一級建築士／技術士(都市及び地方計画)
流山市景観アドバイザー

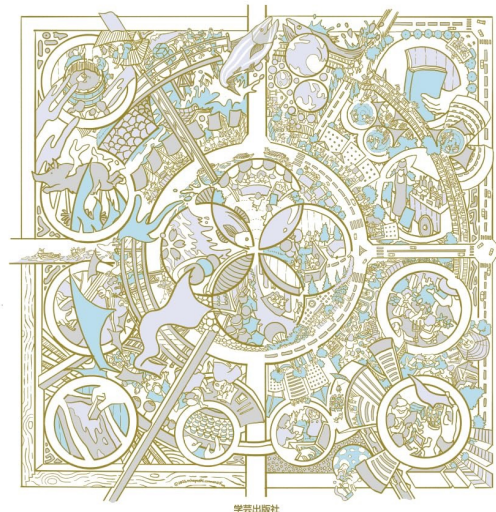
1985年 静岡県生まれ
2010年 東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 景観研究室修了
2010年 日建設計シビル入社
2019年 日建設計シビル退職
2019年 株式会社SOCIを設立

パブリック スペース 活用事典

図解 公共空間を
使いこなすための
制度とルール

泉山晃威／宋俊煥／大藪善久
矢野拓洋／林匡宏／村上早紀子／ソトノバ
パブリックスペース活用学研究会 編著

Encyclopedia of Public Space Utilization Systems



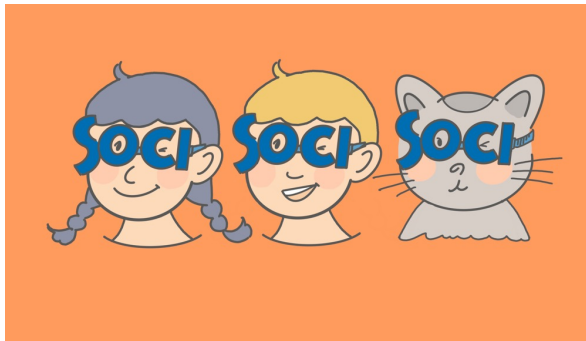
ウォーカブル実践都市(2019～)

豊田市／沼津市／千葉市／堺市／姫路市
つくば市／川崎市／豊島区／大阪市／朝霞市
尼崎市／掛川市／竹原市／茨木市／etc

SOCI inc.

public space design

パブリックスペースの
新しい可能性を拓く



SOCI inc.は新しい時代のパブリックスペースのあり方を模索しながら、
都市スケールから身体スケールまで様々な「場」づくりを行う設計事務所です。

SOCI inc.

public space design

Thinks..

PUBLIC



「公共」を「総私」としてとらえる

PROCESS



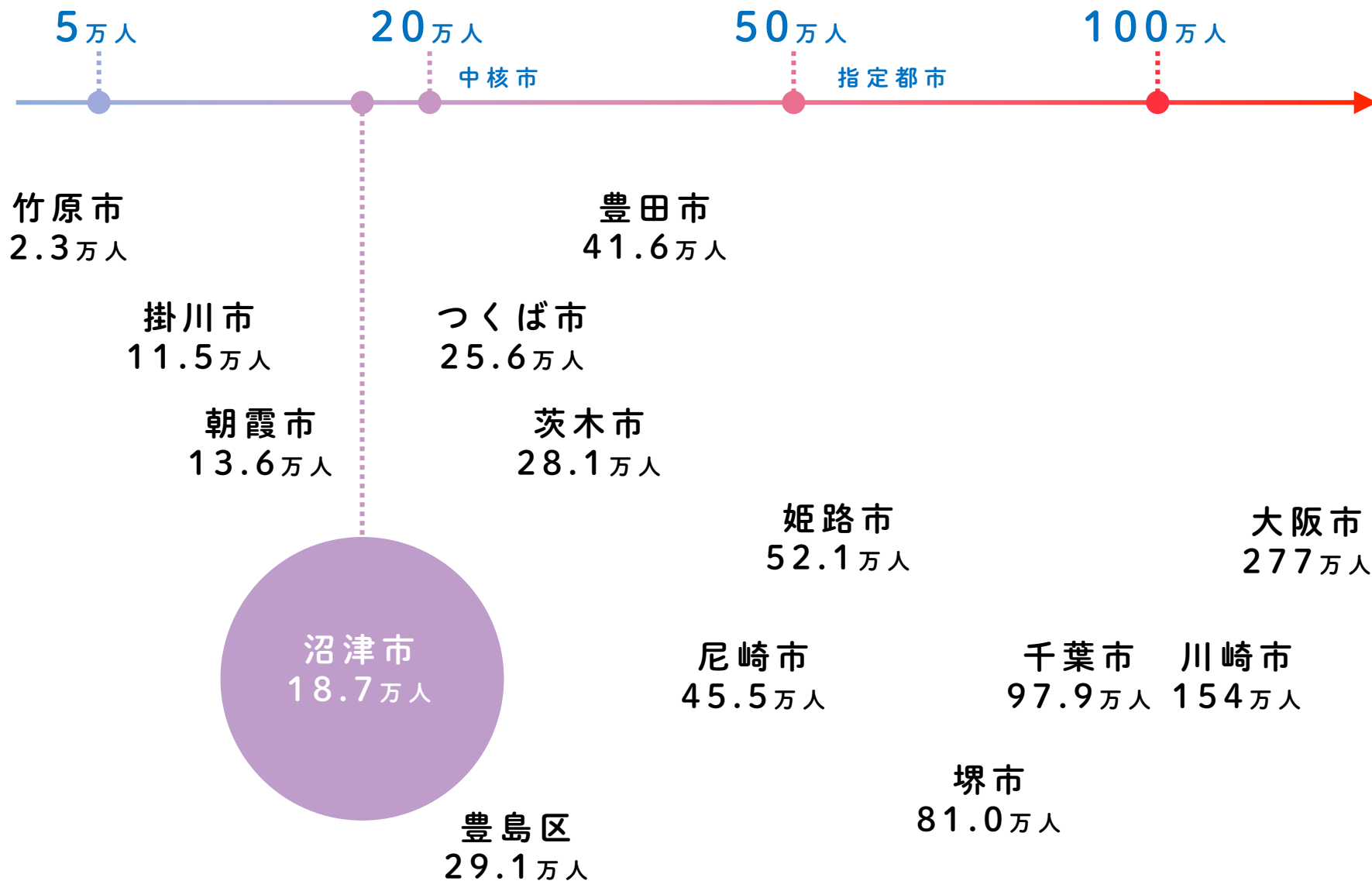
「まち」と「わたし」のものがたりをつなぐ

PROTOTYPE



「実践」と「理論」の循環をつくる

SOCI / ウォーカブル実践都市 (2019~)



CASE

沼津市／中心市街地まちづくり戦略



■沼津市について



沼津駅南口駅前広場



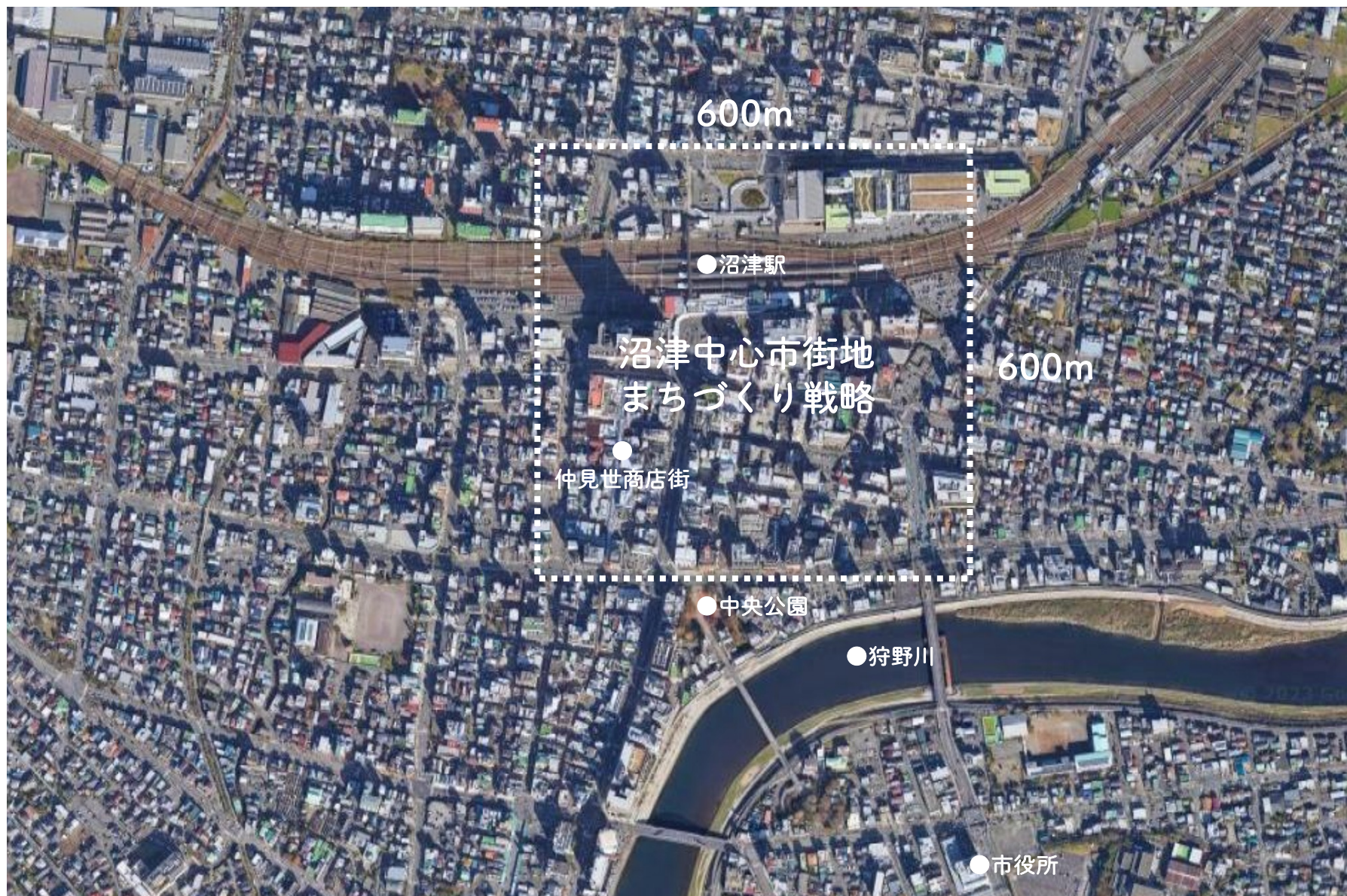
仲見世商店街



狩野川

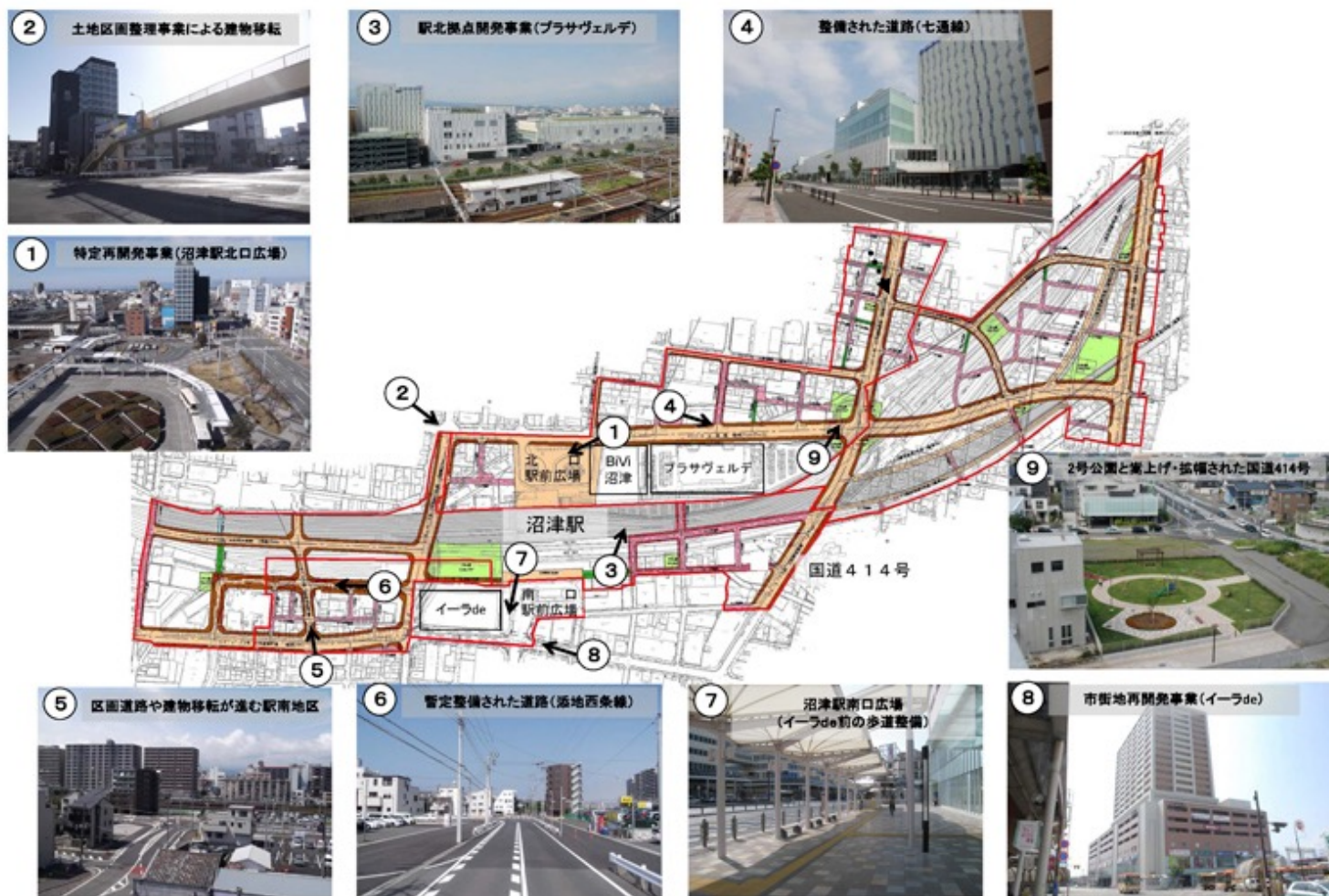


■ 沼津中心市街地まちづくり戦略（2018～）



■ 沼津中心市街地まちづくり戦略（2018～）

沼津駅周辺にて実施されている鉄道高架化による一連の区画整理や道路整備に伴って、
中心市街地まちづくりとして公共空間の再編と駅前広場の再整備を段階的に目指すPJ。



■沼津中心市街地まちづくり戦略（2018～）

⇒ビジョン・計画づくり・整備
⇒社会実験・プレイスメイキング
⇒地元プレイヤーによる社会実験

2018年度 沼津市／沼津駅南口駅前広場整備方針等策定業務

2019年度 沼津市／H31年中心市街地まちづくり戦略公共空間再編に向けた調査・検討等業務委託

⇒沼津市中心市街地まちづくり戦略の策定

2020年度 沼津市／R2年度中心市街地まちづくり戦略ヒト中心の公共空間創出に向けた空間・交通再編検討業務委託
UR都市機構／令和2年度沼津駅周辺地区まちなかウォーカブル推進に向けた検討業務

2021年度 沼津市／令和3年度中心市街地まちづくり戦略公共空間再編整備計画作成等業務
UR都市機構／R3年度沼津駅周辺地区まちなかウォーカブル推進に向けた検討

⇒公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン策定

⇒社会実験「OPEN NUMAZU Street」
＊2022年 4月6日～27日にて実施



■沼津中心市街地まちづくり戦略（2018～）

⇒ビジョン・計画づくり・整備
⇒社会実験・プレイスメイキング
⇒地元プレイヤーによる社会実験

2022年度 公共空間の再編の具体的検討、デザインガイドラインの実践支援

⇒三枚橋錦町線の整備方針策定

⇒社会実験「OPEN NUMAZU Arcade」
* 2022年 10月27日～11月15日にて実施



2023年度 公共空間の再編の具体的検討、Parkletの設計・製作・設置

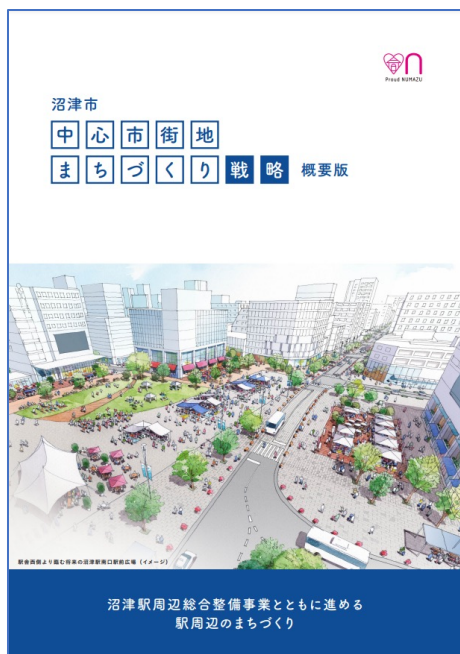
⇒「OPEN NUMAZU Parklet」の設置

⇒三枚橋錦町線の概略設計

⇒社会実験「OPEN NUMAZU WEEKEND」
* 2022年 10月27日～11月15日にて実施

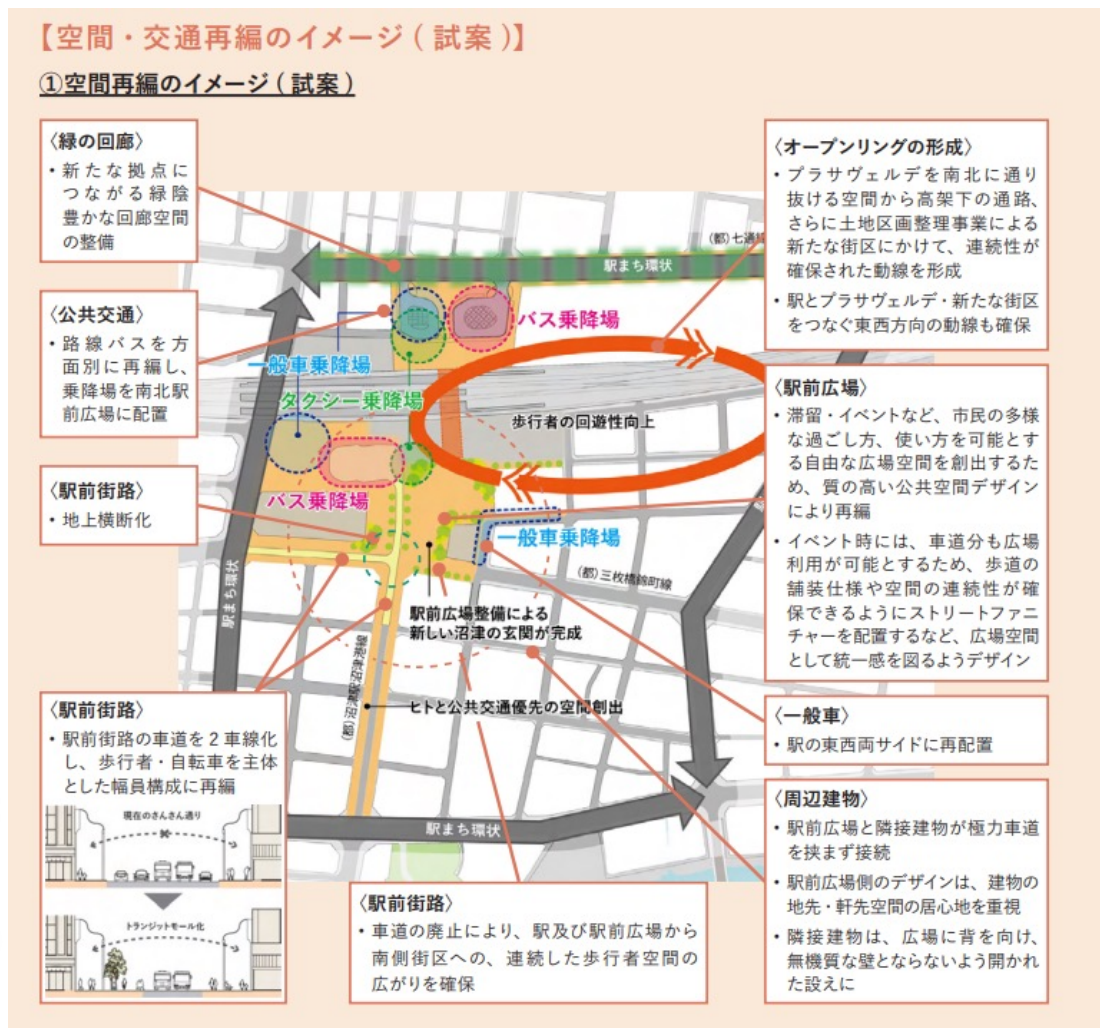


■沼津中心市街地まちづくり戦略（2018～）



沼津駅周辺総合整備事業を契機に、沼津駅周辺の市街地を、ヒト中心の魅力ある場所へと再生し、多くの市民や来訪者が集い、交流し、住まい、回遊する都市の顔として再構築していくために、まちづくりの施策の方向性を示す。

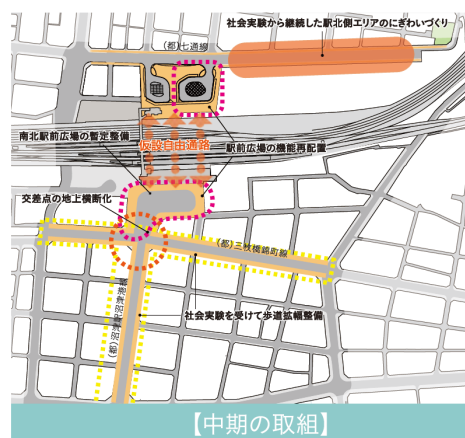
「沼津市中心市街地まちづくり戦略」
を令和2年3月に策定



■短期・中期・長期のまちづくり



- 南口のバス乗降場を方面別に再編
- 南口駅前街路で、車線数減少・歩行者空間拡大の社会実験
- 公共空間の利活用 他



- 南口駅前広場の暫定整備
- 南口駅前街路の車線数減少・歩行者空間拡大
- 駅前交差点の地上横断化 他



- ヒト中心の駅前広場整備
- 南口駅前街路のトランジットモール化
- 駅周辺回遊動線の整備 他

■公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン

中心市街地まちづくり戦略



調査・分析を踏まえ、
どこから、どのように戦略の実現を目指すのか検討

まちづくりシナリオ

中心市街地において取り組むまちづくりの「実践する手順・施策・狙う効果」を描き共有する



まちづくりシナリオを動かすための
アクションプラン・指針を作成



公共空間再編整備計画

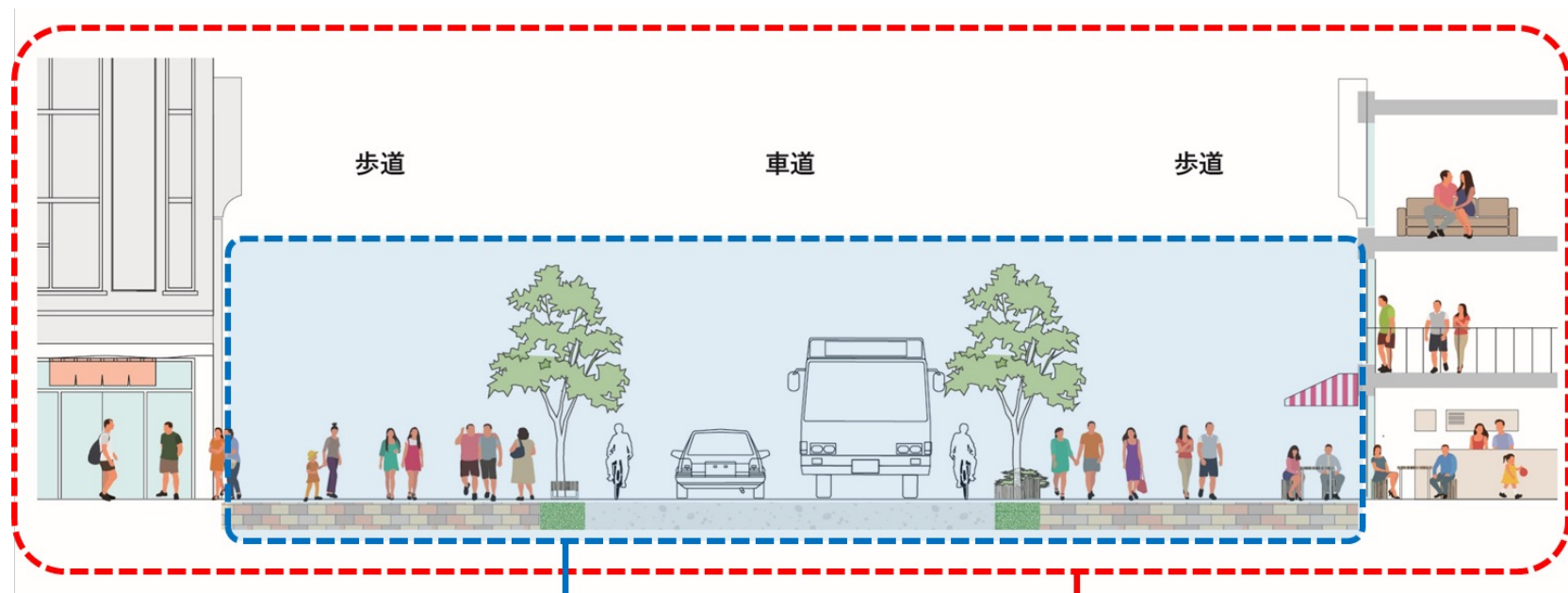
沼津市 が取り組む
中期までの公共空間再編に関する
具体的なアクションプラン

都市空間デザインガイドライン

民間 と **沼津市** が取り組む
民間敷地・建物と公共空間を含む
まちなみづくりのガイドライン

地区全体の戦略づくり
と
官民共に取り組むアクションプラン

■ 公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン



公共空間再編整備計画

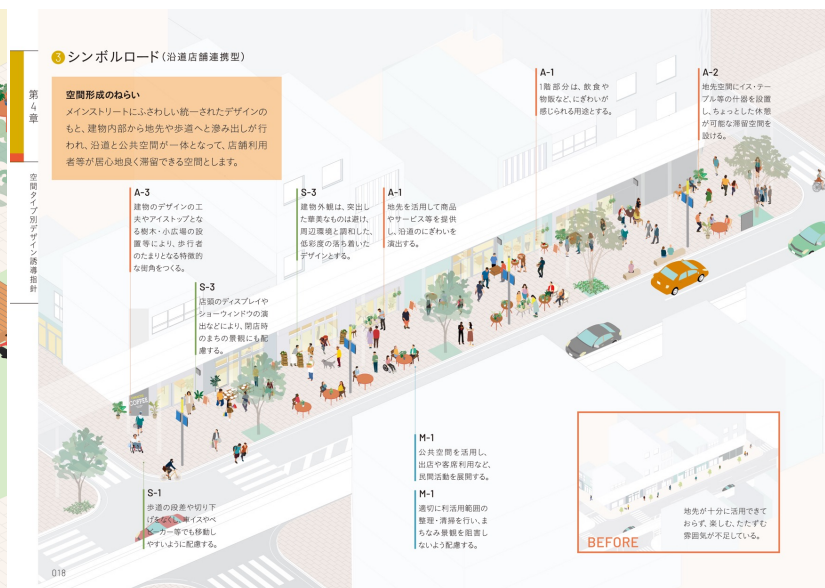
沼津市が取り組む
中期までの公共空間再編に関する
具体的なアクションプラン

都市空間デザインガイドライン

民間と沼津市が取り組む
民間敷地・建物と公共空間を含む
まちなみづくりのガイドライン



都市空間デザインガイドライン



■ 公共空間再編整備計画の流れ

まちの現況分析

プローブパーソン分析

空間特性分析（スペースシンタックス）



まちづくりシナリオ

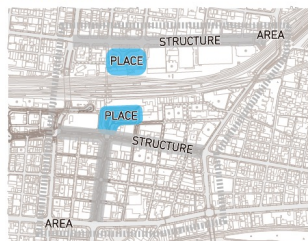
中期のまちの姿を実現するための

戦略的な施策展開のステップ（点・線・面）



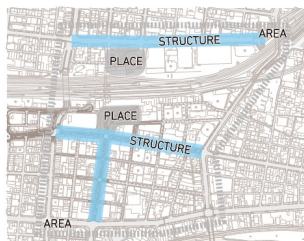
公共空間の再編

駅前広場 居場所(公共空間・広場)の再編



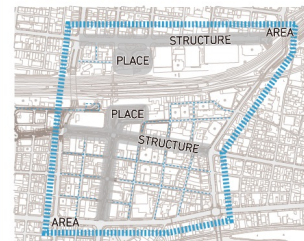
駅周辺やまちなかに“場”を生み出し、人々の集まる拠点をつくります。

駅前街路 骨格(道路)の再編



骨格となる駅前街路の構成を変化させ、ヒトの行き来や活動を物理的にしやすくします。

地区交通体系 交通手段やヒトの回遊の再編

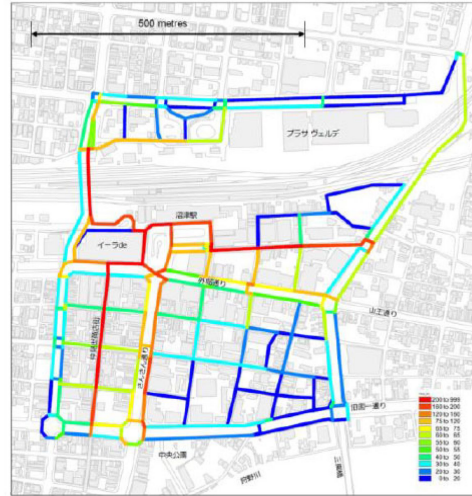


交通手段ごとに通る道路を整理し、歩行者優先に配慮することで、ヒトの回遊を生み出します。

■ 公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン

プローブパーソン調査

歩行者交通量の分布

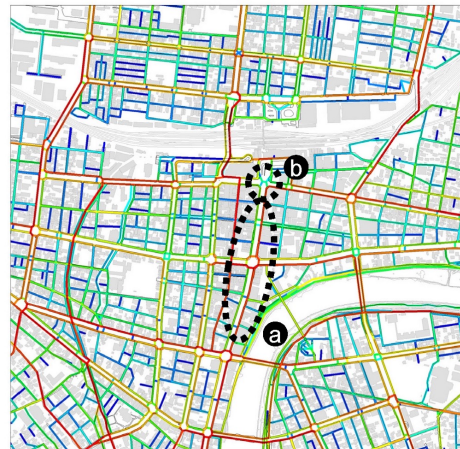


滞在時間の分布（買い物・食事・娯楽）



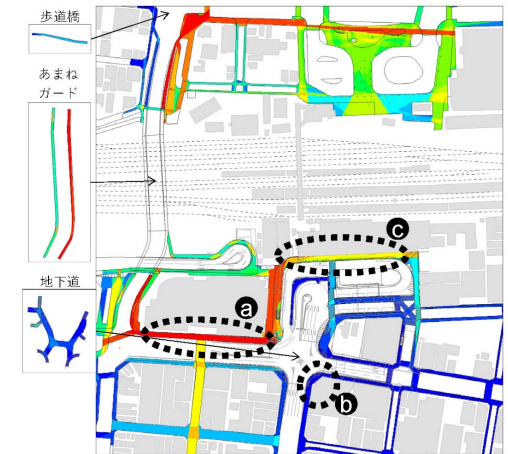
途中経路としての通り掛かりやすさ

対象範囲内の場所について、総当たりで起終点を選び、最適な経路を選んだ際に、途中経路として何回選ばれるかを示す指標



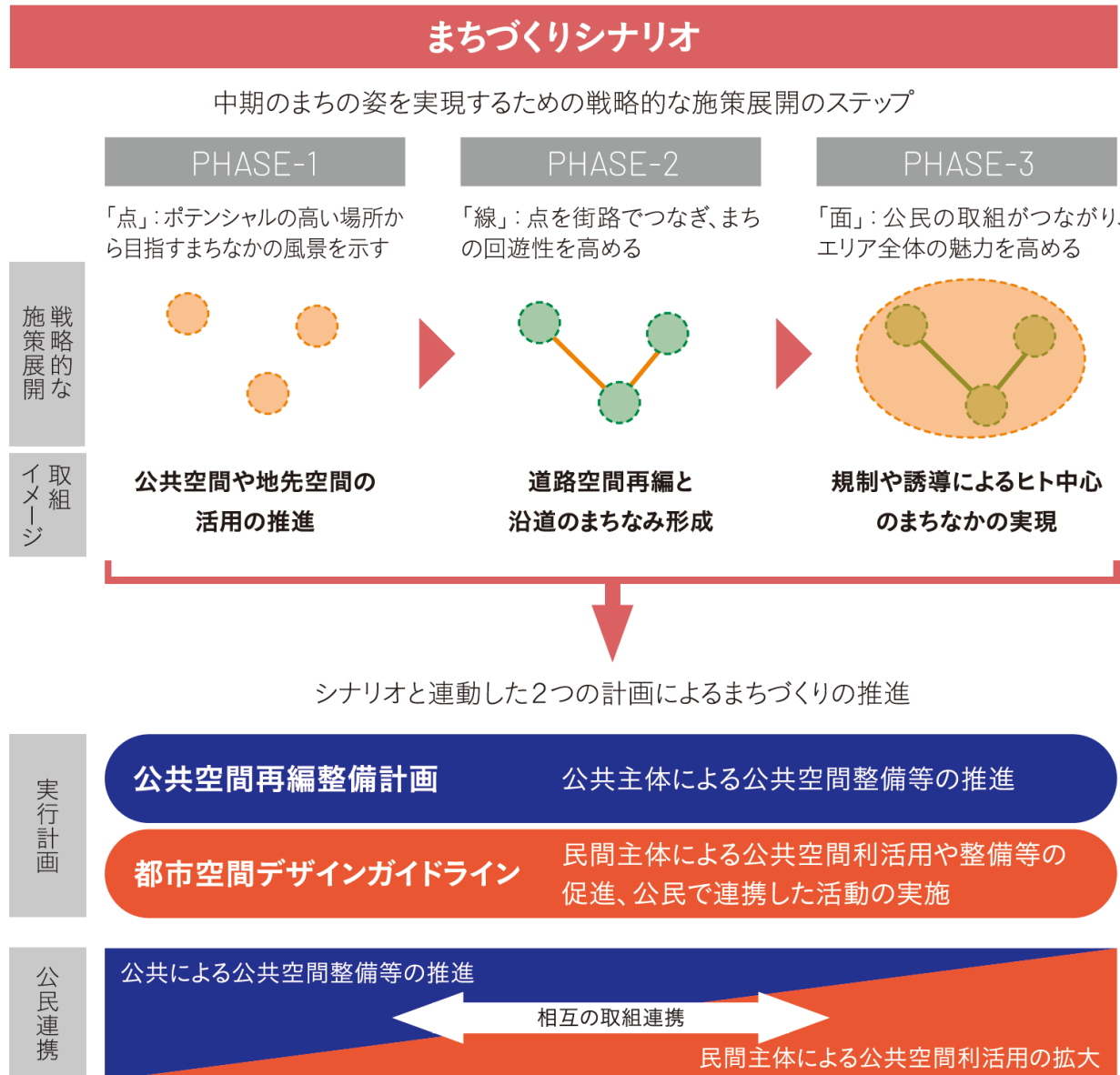
アクセス性指標

ある場所から他の場所に行く際に何回曲がってたり着くのかを平均値で示した指標です。空間ネットワークの中心（樹木に例えると幹）ほど、人が集まりやすくなる。



スペースシンタックス

■まちづくりシナリオ



まちづくりシナリオ

点「つかう・つくる」		線「つながる」		面「ひろがる」	
PHASE 1-1(令和3年度～)	PHASE 1-2(令和4年度～)	PHASE 2-1(令和6年度～)	PHASE 2-2(令和9年度～)	PHASE 3-1(令和12年度～)	PHASE 3-2(令和15年度～)
イメージ					
	・まちなかの貴重なオープンスペースである中央公園での利活用の取組に加え、空間のポテンシャルが最も高い(都)三枚橋錦町線西側区間において車道の一部を歩行者空間化する社会実験を実施する。 ・公共空間の利活用に対する機運やまちの変化に対する市民の期待を醸成する。				
施策概要・狙い	・社会実験を踏まえて、(都)三枚橋錦町線西側区間における定期的な地先空間活用を図り、<u>まちなかに新たな滞留・にぎわいスポットを生み出す。</u> ・仲見世商店街周辺で地先空間活用に係る新たな取組を試行し、<u>「(都)三枚橋錦町線西側区間・仲見世商店街・中央公園・旧国1南エリア」へ歩行者の回遊を生み出す。</u>				
	・南口駅前広場の暫定整備に向けて、一般車乗降場の東西分散化・周辺交通への影響に関する社会実験を実施する。 ・(都)三枚橋錦町線西側区間の再編整備、整備後の歩行者空間の利活用を推進し、<u>駅からの動線及び仲見世商店街・中央公園を含む南北のつながりを強化する。</u>				
	・南口駅前広場の暫定整備とUR敷地での活動拠点づくりにより、開かれた空間を駅前に創出し、<u>まちなかにヒトの交流によるにぎわいを生み出す。</u> ・(都)沼津駅沼津港線等の空間再配分に向けて、車線数の減少・沼津駅南口交差点の地上横断化に関する社会実験を実施する。				
	・駅前街路の再編整備、沼津駅南口交差点の地上横断化により、<u>歩きやすいまちなかを実現し、歩行者回遊範囲の面的拡大を図る。</u> ・(都)沼津駅沼津港線沿道と仲見世商店街周辺の連携による空間利活用により、<u>東西方向でのヒトの流れを生み出す。</u>				
	・回遊環境の向上に合わせて、民間主導による低未利用地の活用や既存店舗の改修などを推進し、取組をエリア全体に広げていくことで、<u>まちなかのエリア価値を高める。</u>				

公共空間の再編

① 公共空間全体の再編方針

第2章のまちの現況分析を踏まえ、第3章のまちづくりシナリオで生み出す歩行者回遊動線の実現に向けて、駅前広場・駅前街路・地区交通体系の再編に取り組んでいきます。

再編に当たっては、対象範囲の公共空間が有する性格に応じて6つの空間タイプに分類し、機能によって整理した目指す方向性を意識して、ヒト中心の都市空間へ転換を図っていきます。

■ 3つの再編項目の方針

<駅前広場>

まちなかで過ごしたくなる、居心地の良い空間へ

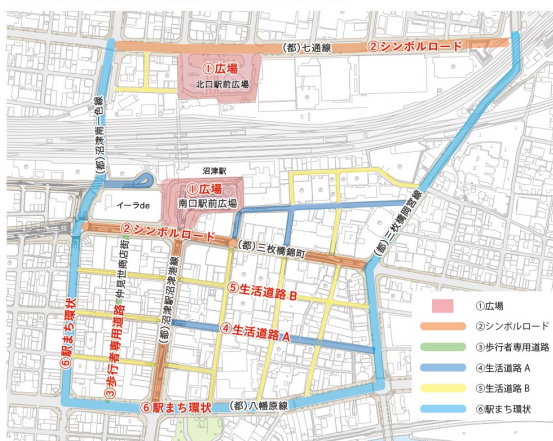
<駅前街路>

駅からまちへ、まちから駅へと歩きたくなる街路空間へ

<地区交通体系>

”歩き”を最優先に、安全や使いやすさを意識した交通体系へ

■ 公共空間の性格付けによる分類

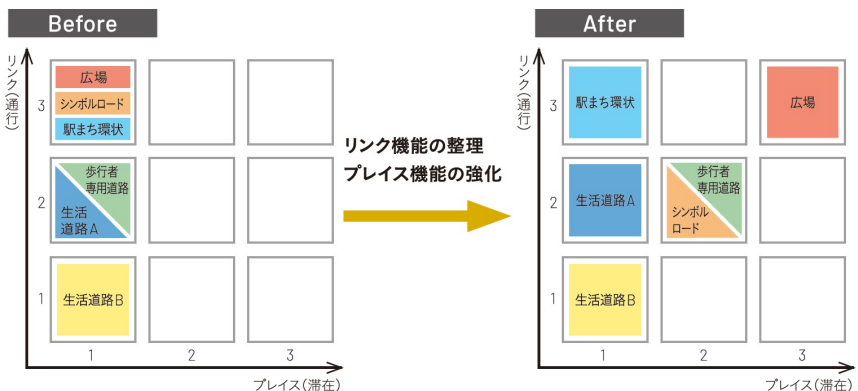


空間タイプのイメージ



■ 目指す方向性

※リンク(通行) 機能: 人や物が移動するための機能
プレイス(滞在) 機能: 多様な活動を繰り広げる場としての機能



■ 6つの空間タイプ

広場

駅前広場

Before (リンク:3, プレイス:1)

After (リンク:3, プレイス:3)

沼津の玄関口であり、交通結節点となる場所。公共交通の利便性は確保しつつ、新たに生み出されるオープンスペースを有効活用することにより、プレイス機能を拡充する。

シンボルロード

駅前街路

Before (リンク:3, プレイス:1)

After (リンク:2, プレイス:2)

一般車等の通過交通を抑制し、歩行者と公共交通優先とする道路。沿道店舗等と連携し、拡張した歩行者空間の活用等によりプレイス機能を拡充する。

地区交通体系

歩行者専用道路

Before (リンク:2, プレイス:1)

After (リンク:2, プレイス:2)

歩行者のまちなか回遊の主動線となる道路。滞留施設の適切な配置などにより、プレイス機能を拡充する。

駅まち環状

Before (リンク:3, プレイス:1)

After (リンク:3, プレイス:1)

駅まち環状エリア内を目的地としない自動車交通や自転車交通を受け止める道路

生活道路A

Before (リンク:2, プレイス:1)

After (リンク:2, プレイス:1)

主に地域住民の日常生活に利用され、自動車の駅まち環状やシンボルロードから各街区へのメインアクセス動線となる道路

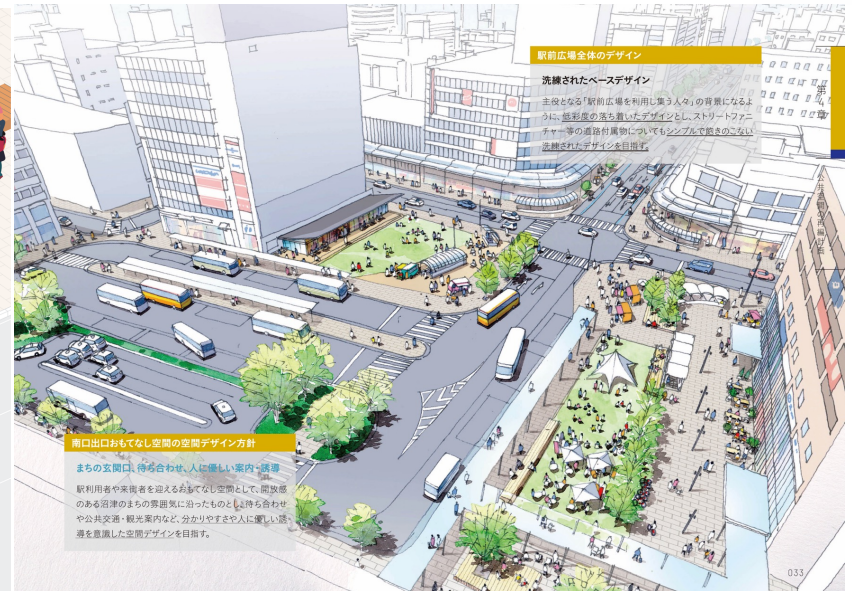
生活道路B

Before (リンク:1, プレイス:1)

After (リンク:1, プレイス:1)

主に地域住民の日常生活に利用され、自動車走行速度の抑制を図り、歩車共存を目指す道路

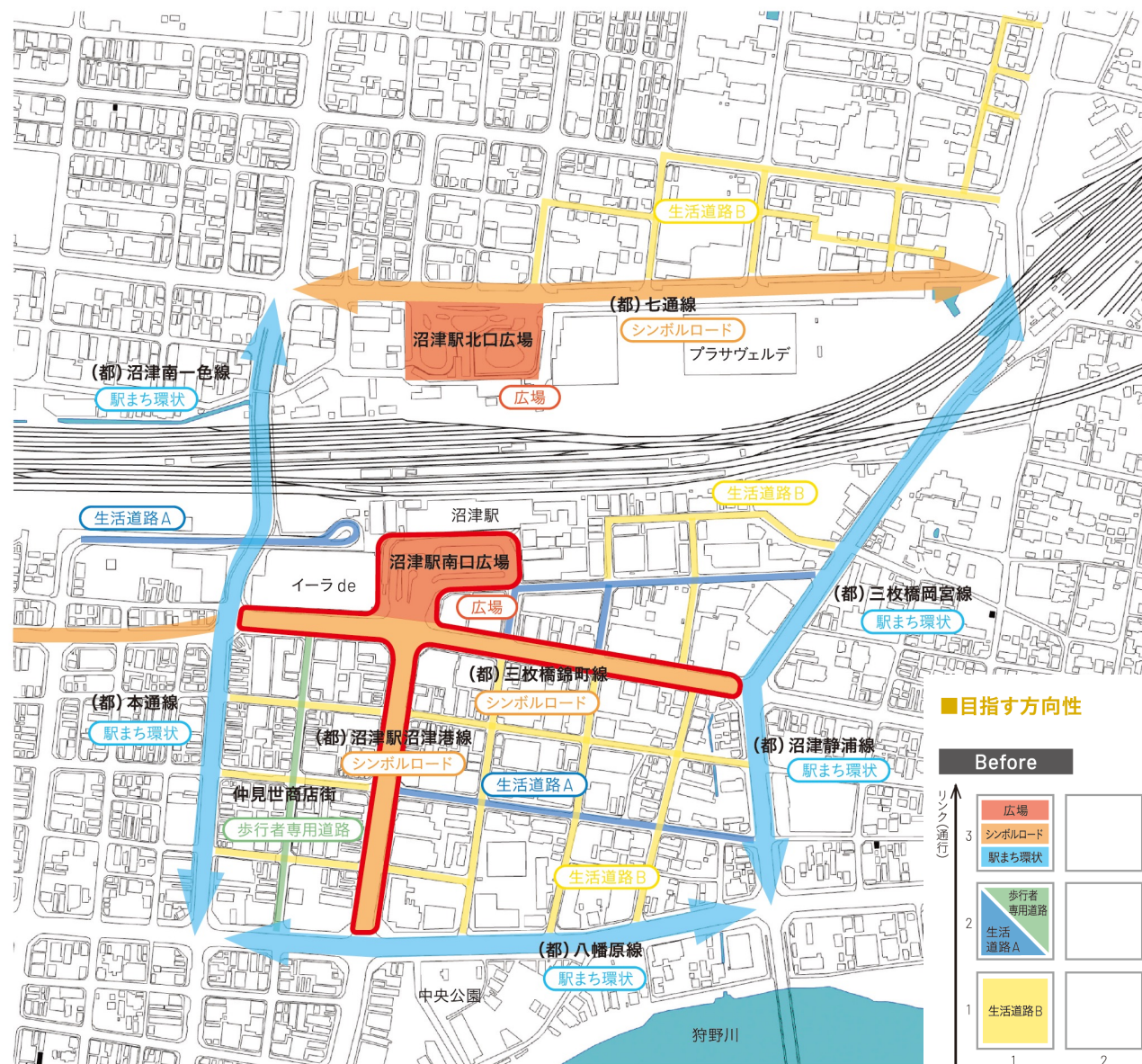
公共空間再編整備計画



都市空間デザインガイドライン



公共空間の再編方針と連携した、各要素のデザイン方針

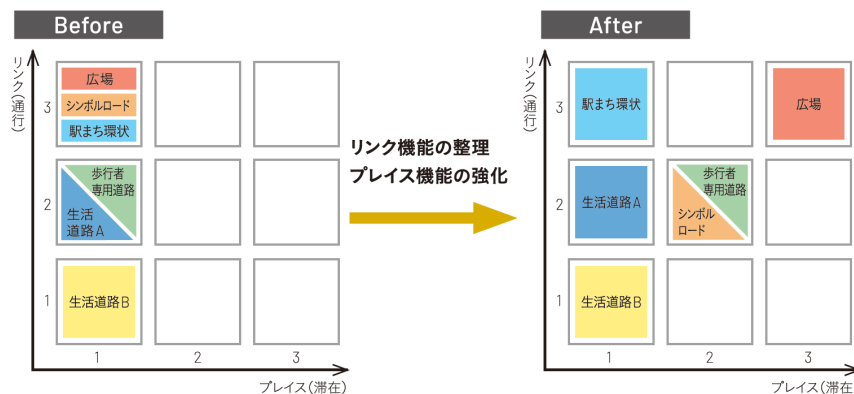


凡例

- 広場
- シンボルロード
- 歩行者専用道路
- 生活道路 A
- 生活道路 B
- 駅まち環状
- 行政による空間再編整備
予定箇所

目指す方向性

※リンク(通行)機能: 人や物が移動するための機能
プレイス(滞在)機能: 多様な活動を繰り広げる場としての機能



■ 公共空間の再編方針と連携した、各要素のデザイン方針

① 広場



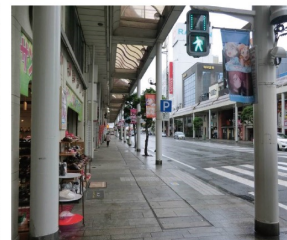
南口駅前広場

まとまったオープンスペースを有する沼津の玄関口。周辺の商業施設と連携し、市民や来訪者の滞在・交流の拠点となることが期待されます。また、空間再編整備が行われることで、ヒトのための空間が拡張します。

② シンボルロード



(都) 三枚橋錦町線



(都) 沼津駅沼津港線

広幅員の道路を有し、まちなかの骨格を成す空間。人々の活動を空間に表出することで、沼津のシンボル空間となることが期待されます。また、空間再編整備が行われることで、ヒトのための空間が拡張します。

③ 歩行者専用道路



仲見世商店街

沼津の商業の中心的な役割を担ってきた歩行者空間。店舗内に限らず、公共空間においても来訪者や商店者等の交流が盛に行われ、引き続きまちなかのにぎわいの中心であることが期待されます。

④ 生活道路A



生活道路A



区画街路のうち主に広い幅員の道路を有し、地域住民等の日常生活に利用される空間。民間敷地の設えの工夫などにより、地域コミュニティ醸成の場となることが期待されます。

⑤ 生活道路B



生活道路B

区画街路のうち狭い幅員の道路を有し、地域住民等の日常生活に利用される空間。通りの閉塞感を防ぎ、歩行者が自動車と共存できる空間となることが期待されます。

⑥ 駅まち環状



(都) 沼津静浦線



(都) 本通線

広幅員の幹線道路によって様々な手段の交通を受け止め、まちなかの外周を形作る空間。沿道の風景から街の入口であることを感じさせる空間となることが期待されます。

■ デザイン方針：（例）シンボルロード

③ シンボルロード（沿道店舗連携型）

空間形成のねらい

メインストリートにふさわしい統一されたデザインのもと、建物内部から地先や歩道へとしみ出しが行われ、沿道と公共空間が一体となって、店舗利用者等が居心地良く滞留できる空間とします。

A-3

建物のデザインの工夫やアイストップとなる樹木・小広場の設置等により、歩行者のたまりとなる特徴的な街角をつくる。

S-3

建物外観は、突出した華美なものは避け、周辺環境と調和した、低彩度の落ち着いたデザインとする。

A-1

地先を活用して商品やサービス等を提供し、沿道のにぎわいを演出する。

S-2

店頭のディスプレイやショーウィンドウの演出などにより、閉店時のまちの景観にも配慮する。

S-1

歩道の段差や切り下げをなくし、車イスやベビーカー等でも移動しやすいように配慮する。

A-1

1階部分は、飲食や物販など、にぎわいが感じられる用途とする。

A-2

地先空間にイス・テーブル等の什器を設置し、ちょっとした休憩が可能な滞留空間を設ける。

M-1

公共空間を活用し、出店や客席利用など、民間活動を展開する。

M-1

適切に利活用範囲の整理・清掃を行い、まちなみ景観を阻害しないよう配慮する。



地先が十分に活用できておらず、楽しむ、たたずむ雰囲気が不足している。

■デザイン方針：（例）シンボルロード

アイデアリスト

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Activity	A-1	グランドレベルにおける 民地からの滲み出し	1階部分は、飲食や物販など、にぎわいが感じられる用途とする。	民
			1階部分は、開口部を大きくとり、内部の様子がわかるような、ガラス等の透過性のある素材を用いる。	民
			地先を活用して商品やサービス等を提供し、沿道のにぎわいを演出する。	民
	A-2	地先空間を活用した、 小さい滞留空間づくり	地先空間にイス・テーブル等の什器を設置し、ちょっとした休憩が可能な滞留空間を設ける。	民
			店舗の地先空間を客席の一部として利用し、にぎわいを店舗内外で連続させる。	民
			軒や庇、日よけなどにより、店舗前に人が留まりやすい空間をつくる。	民
	A-3	まちの資産となる 使い勝手の良い オープンスペース	建物のデザインの工夫やアイストップとなる樹木・小広場の設置等により、歩行者のたまりとなる特徴的な街角をつくる。	公 / 民
			空間を使いこなすための什器やそれを保管するための場所を用意する。	公 / 民
			空間の利活用に必要なインフラ（電気・水道・排水等）を整備し、使い勝手の良い空間とする。	公 / 民

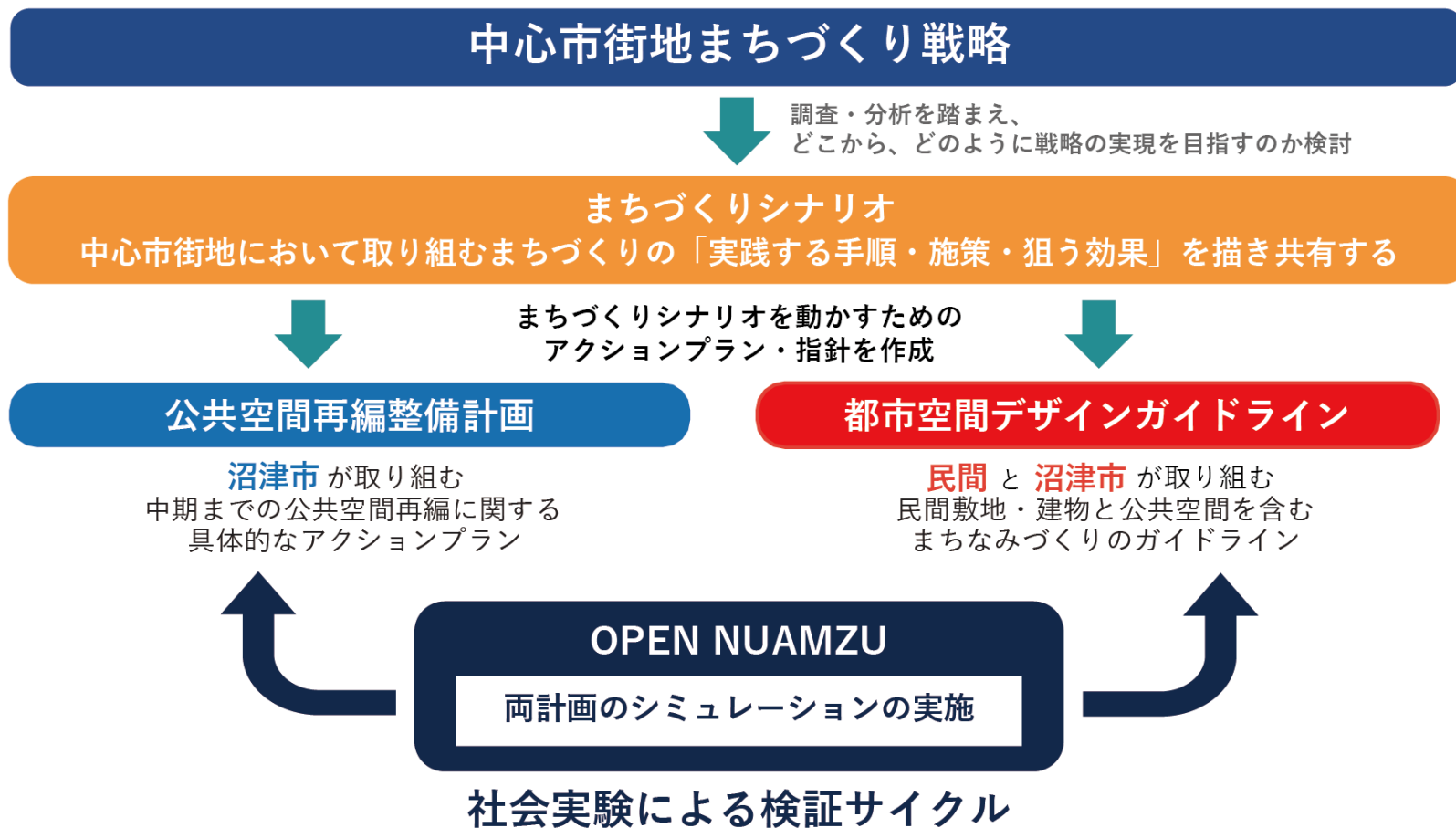
		空間形成方針	アイデア	取組主体
Street	S-3	沼津らしさを感じる 品格のある まちなみデザイン	建物外観は、突出した華美なものは避け、周辺環境と調和した、低彩度の落ち着いたデザインとする。	民
			ショーウィンドウや庇、照明、看板、屋外什器等はエリアでの統一感や連続性に配慮し、トータルで演出する。	民
			店舗のディスプレイやショーウィンドウの演出などにより、閉店時のまちの景観にも配慮する。	民
			案内・誘導や店舗のサイン等は、周辺の景観に配慮した統一感のあるデザインとする。	公 / 民
			立て看板は周辺環境と調和したデザインとする。	民

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Management	M-1	民間事業者等による 積極的な 公共空間の利活用	公共空間を活用し、出店や客席利用など、民間活動を展開する。	公 / 民
			歩行者空間にパークレットなどの滞留・休憩施設を設け、人が滞在しやすい環境をつくる。	公 / 民
			適切に利活用範囲の整理・清掃を行い、まちなみ景観を阻害しないよう配慮する。	公 / 民
	M-2	にぎわいや安らぎを 生み出す、 民間敷地の有効活用	敷地を共同化し、土地の合理的な利用を促進する。	民
			空き家・空き地などの低未利用地を交流・チャレンジの場として暫定的に活用し、にぎわいを育成する。	民
	M-3	民間敷地と公共空間の 一体的更新	通りに面した民地の一部を民間活動の場として提供し、交流のきっかけをつくる。	民 / 住
			建物の壁面後退等による空間を街路・広場と一体となったパブリック空間として活用し、にぎわいを創出する。	民

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Street	S-1	歩きやすく、 分かりやすい、 安心安全な歩行者空間	歩道の段差や切り下げをなくし、車イスやベビーカー等でも移動しやすいように配慮する。	公
			民間敷地内部からの灯りや、街路灯などで公共空間を照らし、夜間や有事でも安心して歩ける空間を確保する。	公 / 民
			通りの始まりとなる箇所の舗装やサイン等は、まちの入口であることが視覚的にわかるようなデザインとする。	公 / 民
			駐車場の出入口の設置を避け、店舗の連続性や歩行者の安全性を確保する。	民 / 住
			歩行空間と自転車走行空間を分離し、歩行者の安全性を高める。	公
	S-2	環境にやさしく、 自然を感じる快適な空間	高木植栽や芝生等によって、緑豊かな歩行・滞在環境をつくる。	公
			屋外で使用する什器等には、緑と調和する木材など、温かみを感じる材質のものを用いる。	公 / 民
			透水性機能や保水・遮熱機能、騒音・排気等の吸収機能など、環境に配慮した舗装とする。	公
			民地における壁面緑化や敷地境界部の植栽・プランターなどにより、まちの緑を補完する。	民 / 住

公：公共
民：民間事業者
住：住民

■公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン



社会実験 → アジャイル的な検証システム

■戦略的な検証サイクル「OPEN NUMAZU」

！OPEN！ NUMAZU

「OPEN！NUMAZU」は公共空間をひらくことで見える未来の沼津のまちなかの風景を「日常」へとつなげる実験的な取り組みです。空間をひらくことだけでなく、暮らしの余白を広げ、ひとりひとりが日常を豊かにするためのアクションを起こすことで、未来のまちなかへ近づいていきます。





社会実験の目的／未来の風景を埋め込む

- 
1 まちづくり戦略の中期における
道路再配分と利活用空間創出における影響及び効果検証
- 
2 沼津の将来への期待感を持てる「日常」の風景づくり
- 
3 地域における公共空間利活用の機運の醸成と、
未来につながる仕掛けを埋め込む

地域における公共空間利活用の機運の醸成と、 未来につながる仕掛けを埋め込む

Design : イベント化しないための運営・調査と、今後に繋がる仕掛け

ビジョン

都市空間デザインガイドライン

民間と沼津市が取り組む
民間敷地・建物と公共空間を含む
まちなみづくりのガイドライン

デザインガイドライン
の実践を市が伴走

民間への展開

地先空間活用チャレンジ
@仲見世商店街など

デザインガイドライン
が実現する未来を示す



オリジナル什器で
実践を援助・空間の質を担保

社会実験

仮説の検証と成果

01

道路再配分と利活用空間創出における影響及び効果検証

1車線を減少して実験を行ったところ、交通量としては道路の再編が可能な結果となりました。また、利活用空間創出により歩行者交通量等が増加しました。

自動車交通の影響：周辺2交差点は交通量が微増したが、
交通処理能力には余裕がある結果となった

歩行者交通量：最大**約60%増加**

対象エリアの滞留人数：**1.6倍（座る人は3.5倍に）**

02

沼津の将来への期待感を持てる「日常」の風景づくり

日常の風景として、車道上の「くつろぎ空間」は居心地の良さが評価されました。また、実際に会話や飲食等のアクティビティが多く観察され、期間中に利用も増えました。

居心地が良い：**71%**

今後も「くつろぎ空間」を利用したい

：**87%**

（アンケート調査より）



03

地域における公共空間利活用の機運の醸成と、未来につながる仕掛けを埋め込む

市内や近隣店舗への協力により出店を実施し、公共空間のポテンシャルを感じてもらうと共に、市民への周知としてSNSを活用した広報を実施しました。

今回の社会実験へ参加してよかった

：**80%**

（出店者ヒアリングより）



Facebook

リーチ数：**約5.0万人**

Instagram

リーチ数：**約3.6万人**

3

地域における公共空間利活用の機運の醸成と、

未来につながる仕掛けを埋め込む

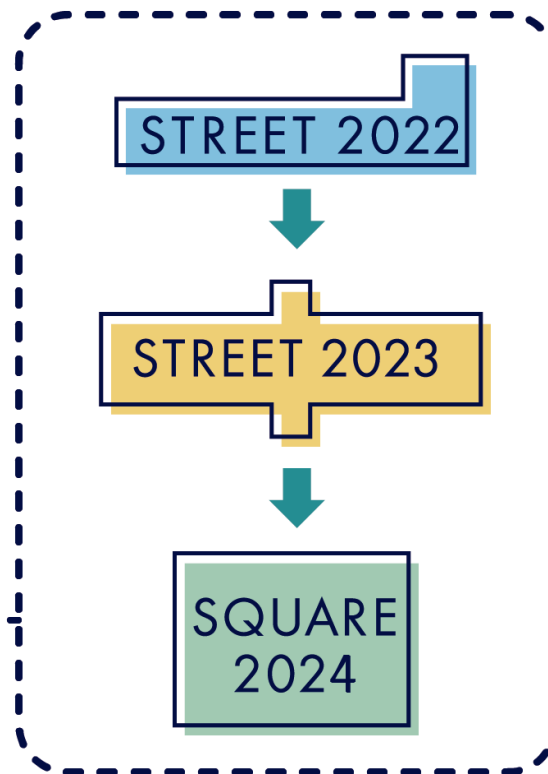
OPEN!
NUMAZU

STREET 2022

STREET 2022

STREET 2023

SQUARE
2024



仲見世商店街



ヒト中心のまちなかをつくるプロジェクト

\OPEN! NUMAZU

2022

ARCADE



下記の期間、沼津仲見世商店街で公共空間活用社会実験をおこないます。

10/27.thu ▶ 11/15.tue

OPEN 9:00~19:00

OPEN NUMAZU 2022 ARCADEで生まれた風景



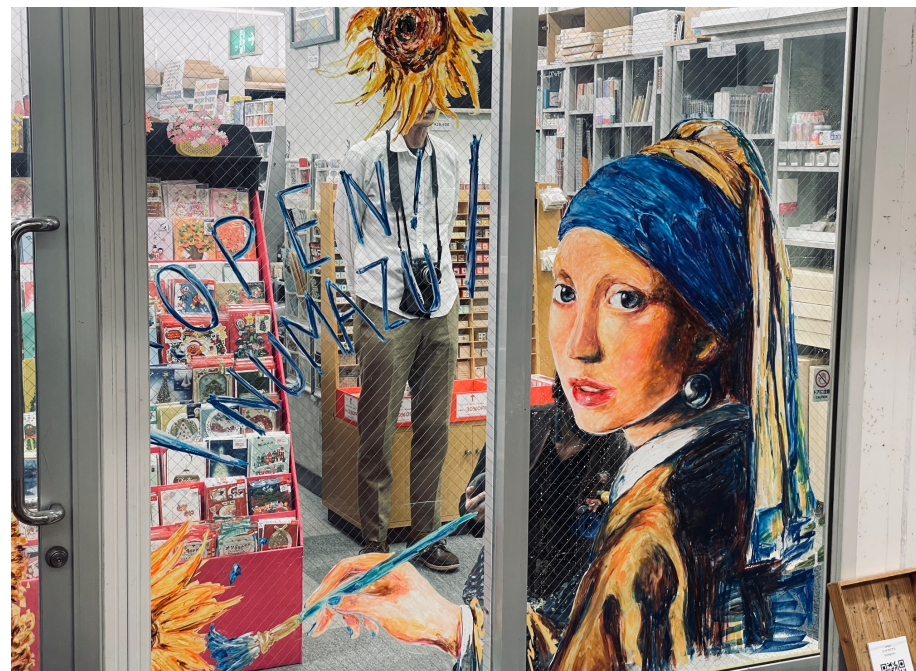
市民の暮らしを応援するプロジェクト

OPEN NUMAZU 2022

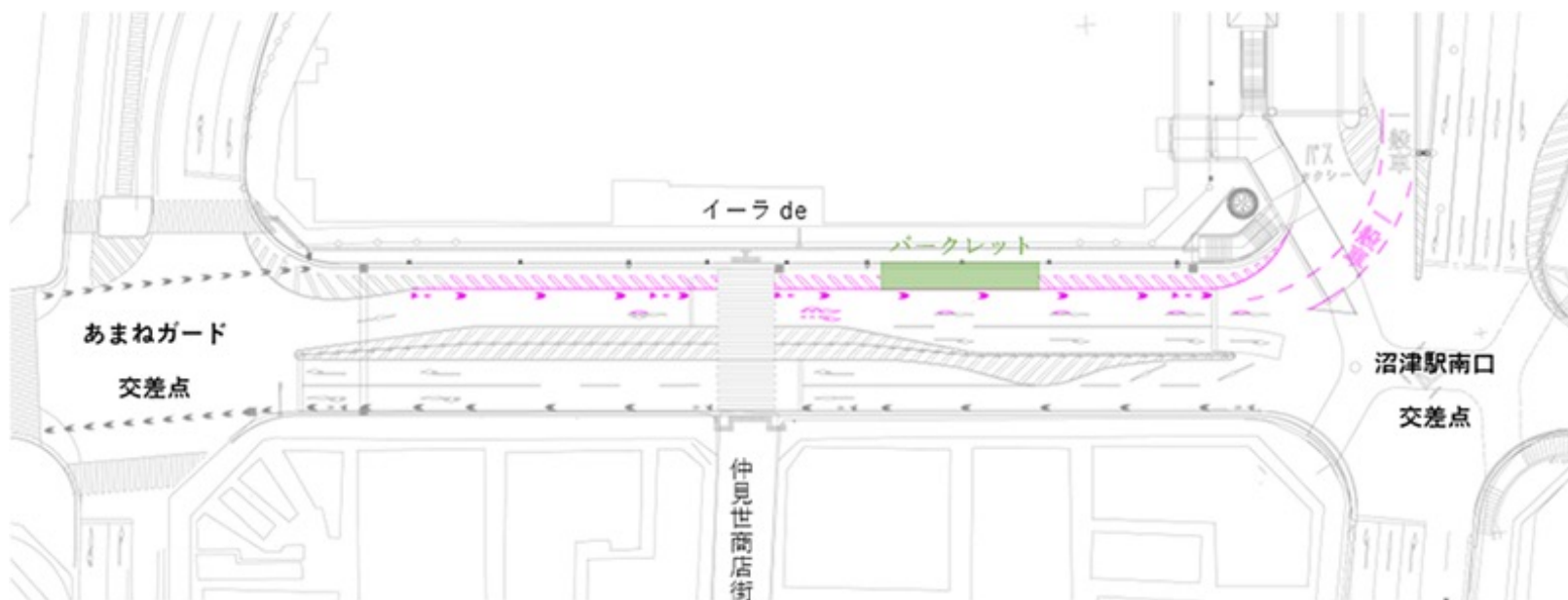
ARCADE

下記の期間、沼津仲見世商店街で公共空間活用の社会実験をおこないます。

10/27.thu ▶ 11/15.tue
OPEN 9:00 - 19:00



■ 「OPEN NUMAZU PARKLET」



「OPEN! NUMAZU」のこれまでの実証実験の結果として、
長期間設置のパークレットを三枚橋錦町線に設置しました。

■ 「OPEN NUMAZU PARKLET」





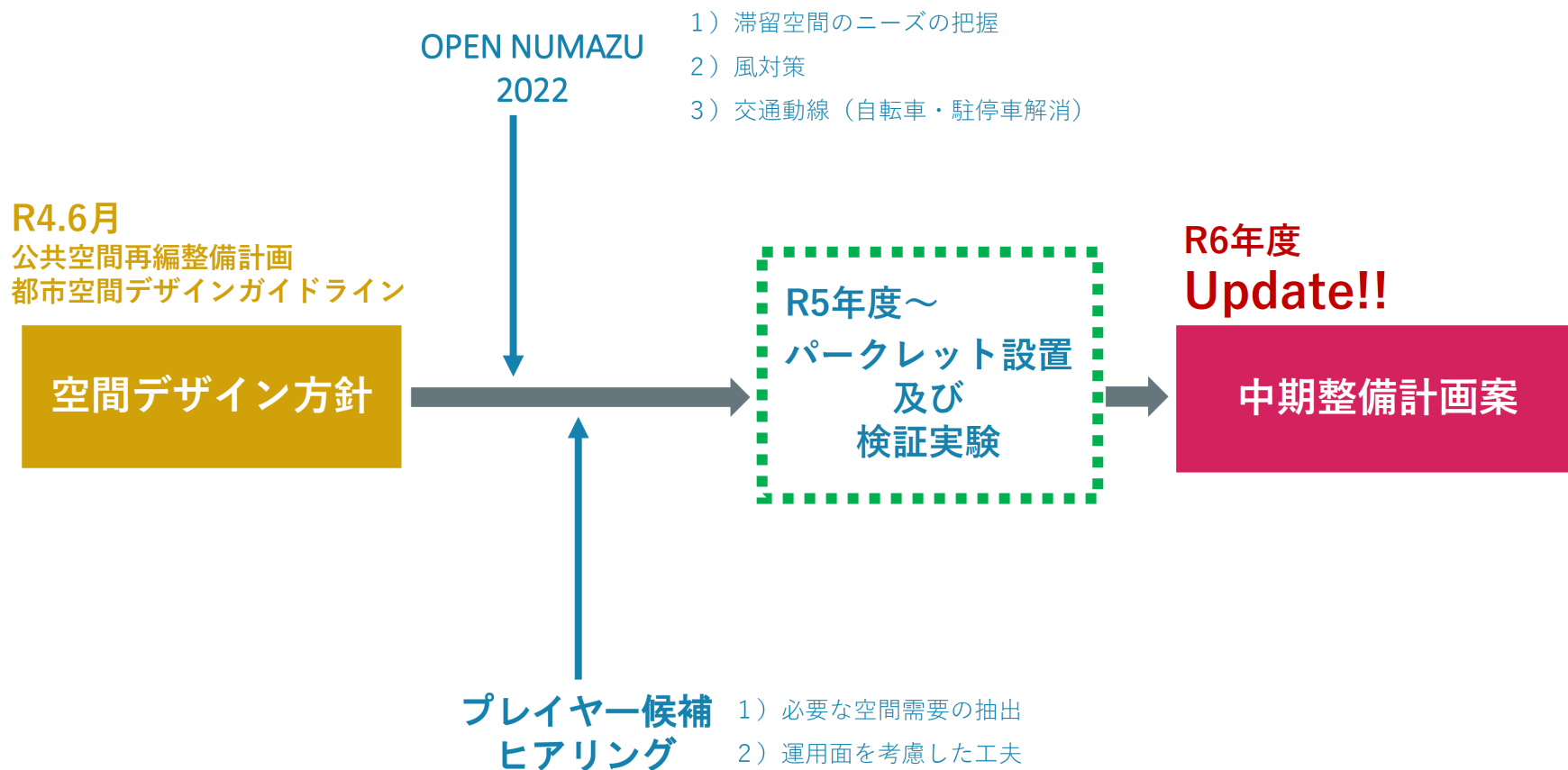


OPEN NUMAZU GREEN PROJECT



OPEN NUMAZU GREEN PROJECT

■ これからの進め方



■ウォーカブルをすすめるためのヒント

SOCI inc.
public space design

Thinks..

PUBLIC



「公共」を「総私」としてとらえる

PROCESS



「まち」と「わたし」のものがたりをつなぐ

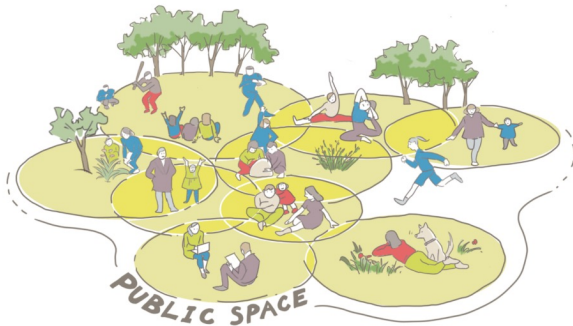
PROTOTYPE



「実践」と「理論」の循環をつくる

■ウォーカブルをすすめるためのヒント

PUBLIC



「公共」を「総私」としてとらえる

まちを測り、「シナリオ（戦術）」をつくる。

→まちを測り、人の動きを可視化し、戦術を考える

→ビジョンや戦略の次に、どこから何から
手をつけるのかのシナリオづくり

→そのシナリオをアジャイル的に見直す

→まちづくりのシナリオを
市民が理解してもらい、乗っかってもらう

■ウォーカブルをすすめるためのヒント

PROCESS



「まち」と「わたし」のものがたりをつなぐ

「大きいまちづくり」×「小さいまちづくり」

→ハード整備主体の公共空間再編と、
民間主体の取り組みや仕掛けをいかに掛け算できるか

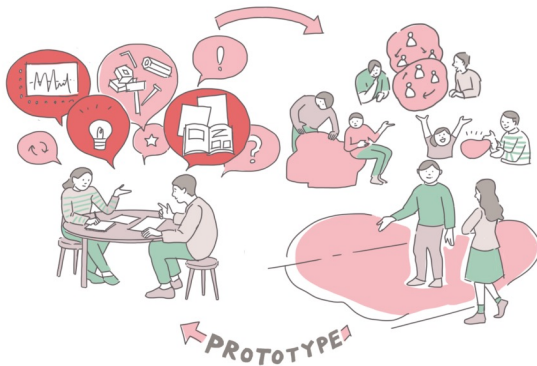
→沼津の場合は、
中心市街地まちづくり戦略×リノベまちづくり

→まちのものがたりに、いかに「わたし」が関われるか

■ウォーカブルをすすめるためのヒント

まちづくりの「循環」のシステムをつくる

PROTOTYPE



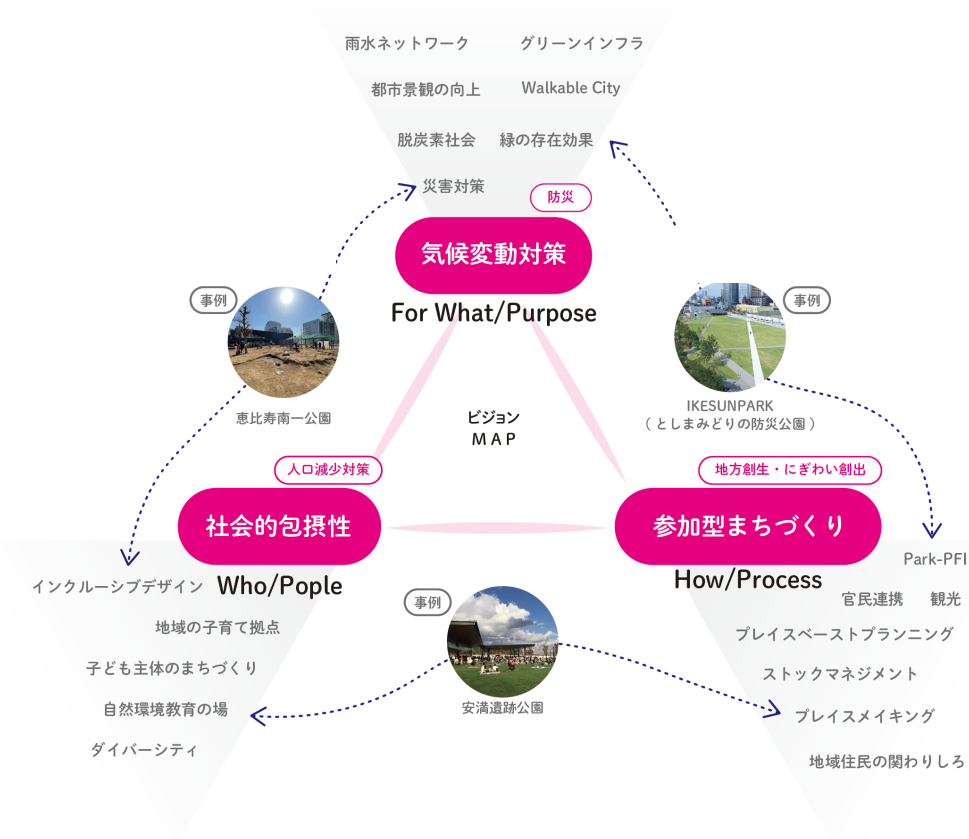
「実践」と「理論」の循環をつくる

→例えば、社会実験をシステムとして実装する
単発で終わらせないための仕掛けを組み込む

→キャラバンの発想や、プレイヤーで繋ぐ
出店者のメリットを最大化するための仕掛け

→フローではなく、ストック的な発想が大事

■ウォーカブルをすすめるためのヒント



他部署・市民・学生・プレイヤー
を「徹底的に」巻き込む

- 巻き込みやすい仕掛けをつくる
- 社会実験のシステム化もその一つ
- まちづくりの合言葉を作り、広報を行う
- 縦割りを超えるBIG VISIONを議論する。

ウォーカブルは、目的ではなく手段。なんのためにやるのかをもう一度考える
「未来の暮らしの目指す姿」は、本来領域横断して全市的に取り組むべきもの

■沼津市がうまくいっているとしたら、

・ BIG VISIONとしての「中心市街地まちづくり戦略」の存在

- 連続立体交差事業を契機とした、ヒト中心の中心市街地を目指す取り組み
- その手段としての「ウォーカブル」の手法を用いる
- より領域横断して、さまざまな分野を掛け算する必要がある

・ 自治体と地元のよい関係性

- リノベーションまちづくりによるプレイヤーの存在
- 中心市街地まちづくり戦略業務でも、地元プレイヤーを入れて動かしていく
EX：OPENNUMAZUのロゴ、什器製作、出店者発掘、運営、

・ 取り組みが持続するための業務体制（市とUR）

- 沼津市とUR：「沼津市中心市街地まちづくり戦略の推進に関する協定」
- 6年間、それぞれが役割分担しながら業務発注して継続的に取り組みを進める
- 継続的に関わり二人三脚で戦略をつくる、都市デザイナーの存在

SOCI inc.
public space design